

## 第8回 長安口ダム環境モニタリング委員会 議事概要

1. 日 時：平成30年2月27日（火）14：00～16：00

2. 場 所：ホテル千秋閣 7F 鳳の間

3. 出席委員：河口 洋一（徳島大学 准教授）

木下 覺（徳島県植物研究会 会長）

小林 實（河川・溪流環境アドバイザー）

松田 春菜（四国大学 講師）

山田 量崇（徳島県立博物館 主任）（欠席）

山中 亮一（徳島大学大学院 講師）

◎湯城 豊勝（阿南工業高等専門学校 名誉教授）

（五十音順、◎：委員長）

### 4. 配付資料：

資料1 議事次第、配席図、委員会規約

資料2 長安口ダム改造事業の進捗状況 [概要版]

資料3 環境モニタリング調査の基本方針及び調査方針 [概要版]

資料4 長安口ダム改造事業に係る平成29年度モニタリング調査の実施状況及び  
評価結果 [概要版]

資料5 長安口ダム改造事業に係る平成30年度モニタリング実施計画書(案) [概要版]

資料6 工事終了後の環境モニタリング調査の基本方針 [概要版]

別添資料 補足資料

その他 参考 傍聴される方へのお願い

参考 取材についてのお願い

### 5. 議 事：

(1) 長安口ダム改造事業の進捗状況について

(2) 平成29年度のモニタリング調査結果について

(3) 平成30年度のモニタリング実施計画（案）について

(4) 工事終了後の環境モニタリング調査の基本方針

### 6. 議事概要：

第8回長安口ダム環境モニタリング委員会において、長安口ダム改造事業の進捗状況、環境モニタリングの基本方針及び実施状況、平成29年度モニタリング調査の実施

状況及び評価結果、平成 30 年度モニタリング実施計画書（案）、工事終了後の環境モニタリング調査の基本方針について審議を行った。

（1）平成 29 年度モニタリング調査の実施状況及び評価結果について

【騒音・振動】

- ・特になし。

【水環境】

- ・日野谷発電所放水口の水温についても重要であるので 1 時間毎の連続観測が可能なデータロガーの設置を行うことが望ましい。
- ・表層から低層までのダム湖内のSSが示されているが、今後これを用いて選択取水設備の運用の効果を示すことを検討していただきたい。

【植物】

- ・植物のモニタリング調査や移植等の取り組みは非常によくやっていると評価している。那賀川流域は、環境が多様で植物も多様であり、貴重種も多いことが特徴である。長安口ダムで行った取り組みを他にも発信することを考えていただきたい。

【猛禽類】

- ・モニタリングの結果からは、工事と上位性の観点からの猛禽類の出現状況の比較では、工事による猛禽類への影響はなかったと考えられる。
- ・今後の工事でも、猛禽類の繁殖期における工事の騒音・振動、照明について充分注意してほしい。

【下流河川調査結果】

- ・アユは放流量に依存しているので、放流量との関係も整理しておくべきである。

【濁度指標を用いた評価手法】

- ・写真のみの評価は現場の感覚と違っている場合があるので、実際現場で色見指標を用いた見た色による判断が重要である。このような評価をぜひ進めてほしい。

（2）平成 30 年度モニタリング実施計画書（案）について

- ・水質調査で異常値が出やすい時期（夏期等）は、再分析が可能なように再分析用のサンプルをとるなど、要因が解明できる調査体制をとっておくべきである。

(3) 工事終了後の環境モニタリング調査の基本方針

- ・ラン科で移植が難しい種（A・B）については、移植に成功しなくても、ダム改造事業完了後に環境が落ち着くと、また工事前のようにダム近くの周辺環境に生育するようになる可能性がある。

以上の議事を踏まえ、平成 29 年度モニタリング調査結果および平成 30 年度モニタリング実施計画書、工事終了後の環境モニタリング調査の基本方針は了承された。

(以上)